

## 高知県初記録のイガグリフグ (フグ目ハリセンボン科)

中江雅典・町田吉彦

First record of a porcupine fish *Cyclichthys spilostylus* from Kochi Prefecture, southern Japan  
(Tetraodontiformes: Diodontidae)

NAKAE Masanori and MACHIDA Yoshihiko

**Abstract** A diodontid fish *Cyclichthys spilostylus* (Leis and Randall, 1982) is reported for the first time from Kochi Prefecture on the basis of a single specimen (245.3mm in standard length) obtained at Mimase fish market in Kochi City. This specimen also represents the northernmost record of this species on the Pacific coast of Japan. A brief description including coloration and photograph is given.

**Key words:** *Cyclichthys spilostylus*, Diodontidae, first record, Kochi Prefecture, southern Japan.

イガグリフグ *Cyclichthys spilostylus* (Leis and Randall, 1982) はハリセンボン科メイトシガキフグ属の中型種である (Leis, 1986). メイトシガキフグ属は、棘長が眼径より大きい、棘の断面は三角形から扁平状である、棘は不動である、尾柄に棘がない、尾鰭軟条数が通常 9 本である、各鰭に斑紋がないことで他属から区別される (Leis, 1986). また、本種は頭部に 4 根をもつ棘があること、腹面の棘の根元に瞳孔大の黒点があることで同属の他種から区別される (Leis, 1986; Matsuura *et al.*, 1993).

本種はおもにインド・西部太平洋の熱帯に分布し、幼魚期には外洋で生活する (Leis, 1986). 本種の日本での採集例は少なく、琉球列島と日本海の富山湾で報告されていたのみである (Matsuura *et al.*, 1993).

2005年1月10日に、土佐湾での沖合い底曳き網

によって漁獲されたイガグリフグ 1 個体を高知市御豊瀬魚市場で採集した。本研究により、本種が高知県初記録であると同時に、琉球列島以北の太平洋側における初記録と判明したのでここに報告する。計数計測方法は Leis and Randall (1982) に従った。本標本は高知大学理学部海洋生物学研究室 (BSKU) に所蔵されている。

*Cyclichthys spilostylus* (Leis and Randall, 1982)  
イガグリフグ  
(Fig. 1, Table 1)

調査標本 (1 個体): BSKU 74168, 高知県高知市御豊瀬魚市場, 大手繰り (土佐湾), 2005年1月10日。

記載: 計数ならびに計測値を Table 1 に示す。体表の棘は短く、不動で、直立する。各棘はほぼ同長。頭部最前にある 1 棘は両側の鼻孔の間に位

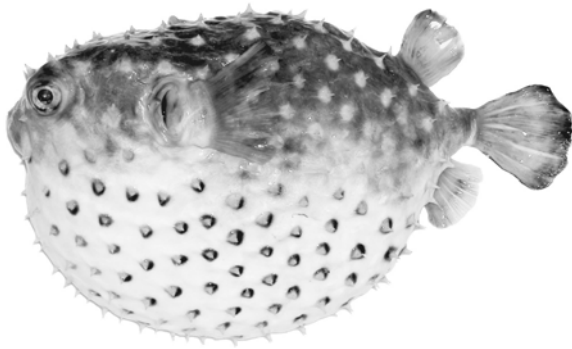


Fig. 1 *Cyclichthys spilostylus*, BSKU 74168, 245.3mm SL, from Tosa Bay.

Table 1. Measurements and counts of *Cyclichthys spilostylus* from Tosa Bay

Catalog number	BSKU 74168
Measurements	
Standard length (mm)	245.3
In % of standard length	
Head length	41.9
Preanus length	82.3
Predorsal length	81.6
Caudal peduncle length	13.0
Caudal peduncle depth	7.9
Eye diameter	8.4
Head width	37.0
Body width	33.2
Interorbital width	21.9
Nostril to mouth	9.7
Height of gill opening	8.6
Mouth width	13.7
Longest dorsal-fin ray	17.9
Longest pectoral-fin ray	20.2
Longest caudal-fin ray	23.2
Longest dorsal spine	3.0
Length of frontal spine	2.2
Longest ventral spine	2.8
Counts	
Dorsal-fin rays	13*
Anal-fin rays	11
Pectoral-fin rays	21
Head spination	1, 2, 3, 4, 4
Predorsal spines	11
Preanal spines	17
Interpectoral spines	6

\*partially anomalous.

置する。尾柄部に棘がない。体は著しく膨張が可能。背鰭，臀鰭および尾鰭の後縁は丸い。背鰭と臀鰭はほぼ同大。鼻孔は触手状の皮弁の末端に 2

つ開口する。

生鮮時の体色：背側は褐色で，腹側は白色。体の棘のいくつかは黄色。背側の白い棘の基部は白色で囲まれる。腹側の棘の根元に瞳孔大の黒点がある。各鰭に斑紋はない。尾鰭の後縁に暗色部がある。体に顕著な斑紋，縦帯および横帯がない。

備考：イガグリフグは紅海産の標本を基に，Leis and Randall (1982) によりイシガキフグ属 (*Chilomycterus*) の新種として記載され，後に Leis (1986) によりメイタイシガキフグ属 (*Cyclichthys*) へ移された。

本標本は，体表の棘が短くて不動性であること，各棘がほぼ同長であること，尾柄に棘がないこと，各鰭に斑紋がないこと，背側が褐色であること，腹側のが白色であること，腹側の棘の根元に瞳孔大の黒点があることで Leis and Randall (1982) の原記載とよく一致する。

イガグリフグは，南アフリカ，紅海，アラビア半島，フィリピン，香港，オーストラリア，ニューカレドニアおよび南日本に分布するとされている (Leis and Randall, 1982; Leis, 2001)。日本では，坂井ほか (1992) が本種を石川県産の魚類リストで紹介し，Matsuura *et al.* (1993) が日本初記録としてイガグリフグの標準和名を提唱した。本種の日本国内での採集例は少なく，これまで沖縄県の石垣島および石川県富山湾から報告されているのみである (Matsuura *et al.*, 1993)。したがって，本記録は高知県だけでなく琉球列島以北の太平洋側での本種の初記録となる。日本には 3 属 7 種のハリセンボン科魚類が分布し (Aizawa, 2002)，世界産は 6 属 19 種である (Nelson, 2006)。平田ほか (1996) は，高知県産として 3 属 4 種の本科魚類を報告したが，本報告により 3 属 5 種となる。

Matsuura *et al.* (1993) は，本種の日本海産の標本と他海域 (琉球列島やインド・太平洋) の標本の間には体色の差を認めた。すなわち，日本海産の標本では，尾鰭と胸鰭は鰭の中央部の白色帯により末端と基部の暗色部が分かれており，他海域産の標本では，尾鰭と胸鰭は一樣に淡灰色であるとした (Matsuura *et al.*, 1993)。本標本では，生鮮時の胸鰭は一樣にやや黄色みを帯びた淡灰色であり，尾鰭は末端の暗色部を除いてやや黄色みを帯びた淡灰色である。ホルマリン固定後の標本では，各鰭の黄色域が消失したこと以外は生鮮時とほぼ同様である。したがって，土佐湾産の本種の

標本は、尾鰭の末端に暗色部がある点で日本海産と一致するが、中央部の白色帯が暗色部を分離しない点で他海域産と一致し、日本海産と他海域産の中間的な色彩を示す。

本種の幼魚は外洋域で生活するが、成魚は沿岸のサンゴ礁付近に生息する (Leis, 1986, 2001)。Matsuura *et al.* (1993) の日本海産の標本は11月と12月に定置網で採集されたが、水温の低下により遊泳が困難になった個体が流され、入網した可能性があるとされている。本標本も12月に得られた点で日本海産の標本と同じである。本標本は底曳き網で採集されたが、急激な浮上による胃の反転と脱腸が見られないことから、表層を遊泳中に入網したと考えられる。

#### 謝 辞

文献の入手にご援助いただいた高田陽子博士、標本の採集にご協力頂いた高知市御豊瀬漁協の皆様や高知大学海洋生物学研究室の学生に厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- Aizawa, M. 2002. Diodontidae. *In* (Nakabo, T., ed.) Fishes of Japan with pictorial keys to the species. English edition. pp. 1432-1434, 1632-1633. Tokai Univ. Press, Tokyo.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相—行動と生態に関する記述を中心として—. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177.
- Leis, J. M. 1986. Diodontidae. *In* (Smith, M. M. and Heemstra, P. C., eds.) Smiths' sea fishes. pp. 903-907. Southern Book Publishers (Pty) Ltd., Johannesburg.
- Leis, J. M. 2001. Diodontidae. *In* (Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds.) FAO species identification guide for fishery purpose. The living marine resources of the Western Central Pacific, Volume 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals. pp. 3958-3965. FAO, Rome.
- Leis, J. M. and J. E. Randall. 1982. *Chilomycterus pilostylus*, a new species of Indo-Pacific burrfish (Pisces, Tetraodontiforms, Diodontidae). RECORDS OF THE AUSTRALIAN MUSEUM, 34: 363-371.
- Matsuura, K., K. Sakai and T. Yoshino. 1993. Records of two diodontid fishes, *Cylichthys orbicularis* and *C. pilostylus* from Japan. JAPANESE JOURNAL OF ICHTHYOLOGY, 40: 372-376.
- Nelson, J. S. 2006. Fishes of the world. Fourth edition. John Wiley & Sons. Inc., New York, xvii + 600pp.
- 坂井恵一・山本邦彦・徳武浩司・岡本 武・松村初男. 1992. 石川県の海産魚類. 動物園水族館雑誌, 33: 5-16.

(原稿受理 2007年3月31日)